

■資料編



資－１ 美幌町の産業と経済動向

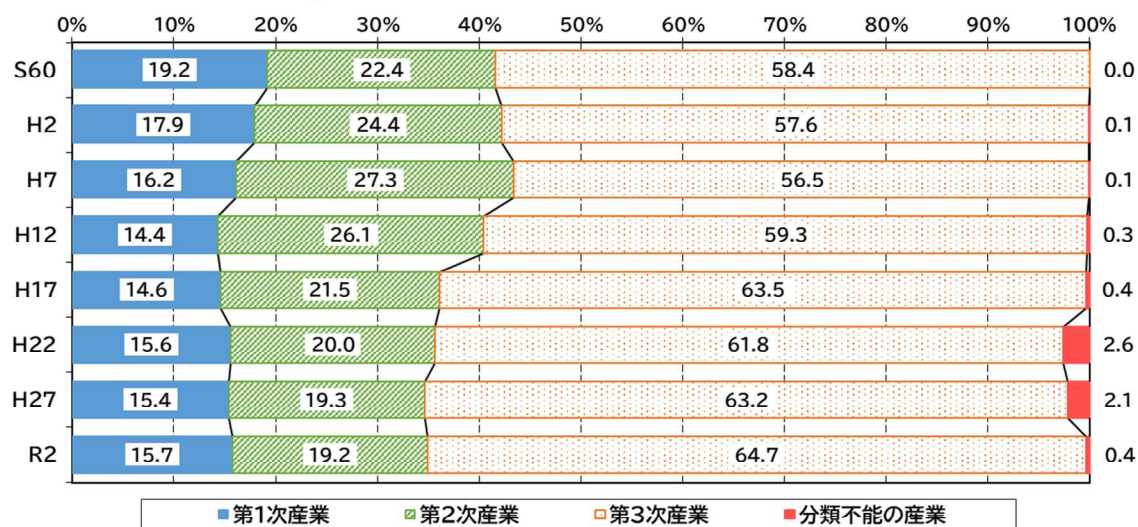
(1) 産業

① 産業構造

美幌町の産業別人口の構成比については、令和2年には第3次産業が約 64.7%と最も高い割合となっています。

経年的にも順位変動はありませんが、第1次産業は15%前後で横ばい、第2次産業は減少傾向、第3次産業は増加傾向に推移しています。

■産業別人口の構成比の推移



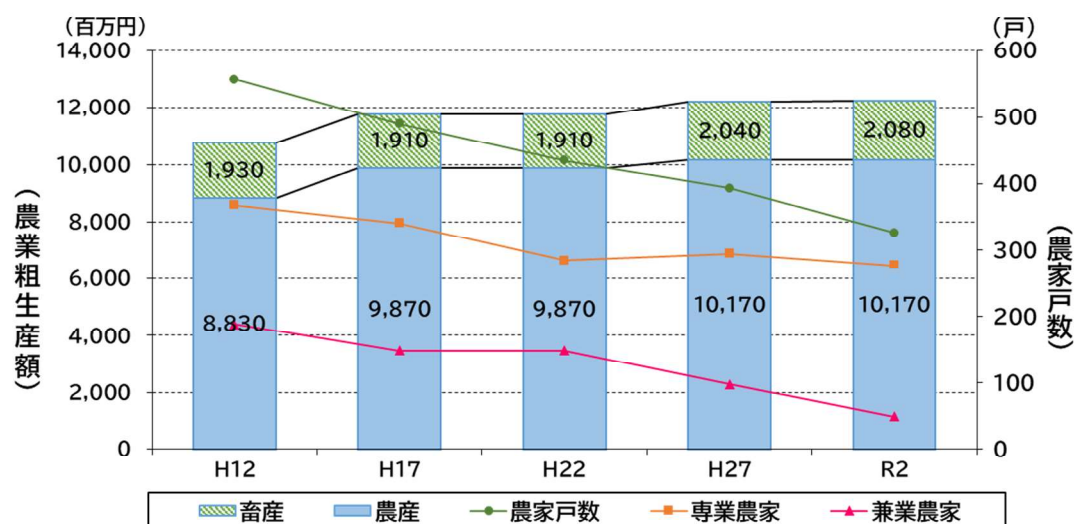
〔資料〕国勢調査

② 農業

農業は当町の基幹産業であり、小麦、馬鈴薯、甜菜等の畑作が中心となっていますが、農家数は経年的に減少しています。

一方、農業粗生産額は経年的に増加傾向となっています。

■農家数・農業粗生産額の推移



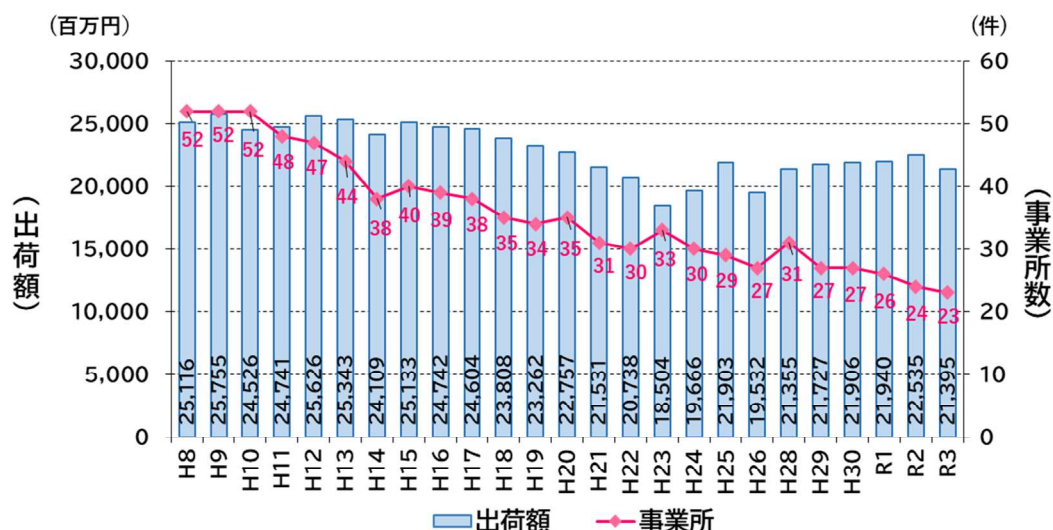
〔資料〕農業粗生産額：農業基本調査、農家戸数：農林業センサス

③ 工業

当町の工業は、第1次産業と関連した農産物を原料とする食料品製造が中心となっていますが、事業所数は経年的には減少傾向となっており、平成29年以降は30件を下回っています。

出荷額は平成26年以降、回復傾向にあります。

■工業出荷額・事業所数の推移

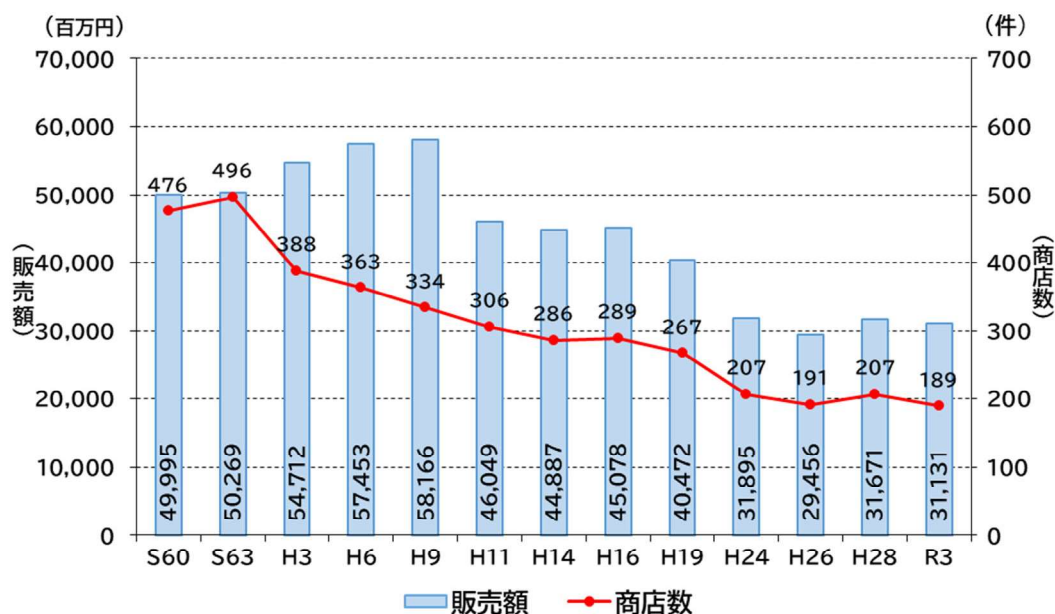


[資料]平成8～26年、平成29年～令和2年工業統計調査、
平成27・28年、令和3年経済センサス

④ 商業

商業は販売額・商店数のいずれも長期的には減少傾向であるものの、平成26年以降では横ばい傾向にあります。

■商業販売額・商店数の推移



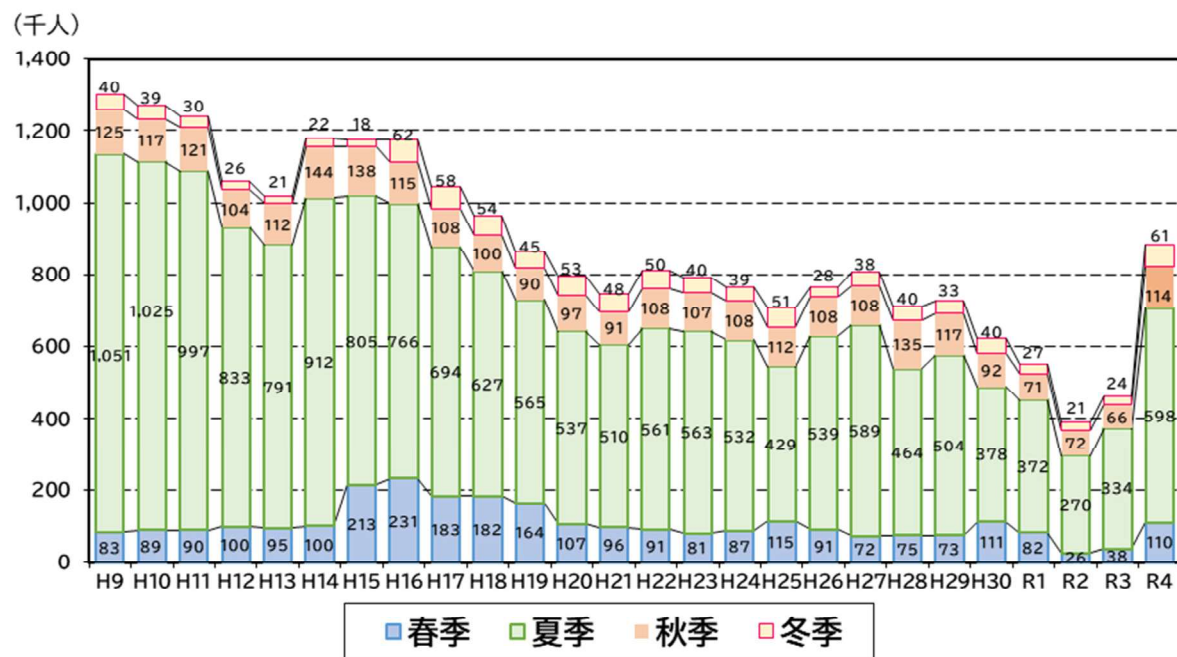
[資料]昭和60年～平成19年商業統計調査、平成24～28年、令和3年経済センサス

⑤ 観光

観光入込客数は平成17年以降減少が続き、令和2年には新型コロナウイルス感染症による影響により39万人まで減少しましたが、それ以降は増加に転じています。

季節変動では冬季は観光入込客数が少なく、夏季を中心とする観光形態となっています。

■観光入込客数の推移



〔資料〕北海道観光入込客数調査報告書(北海道経済部観光局観光振興課)

(2) 経済動向

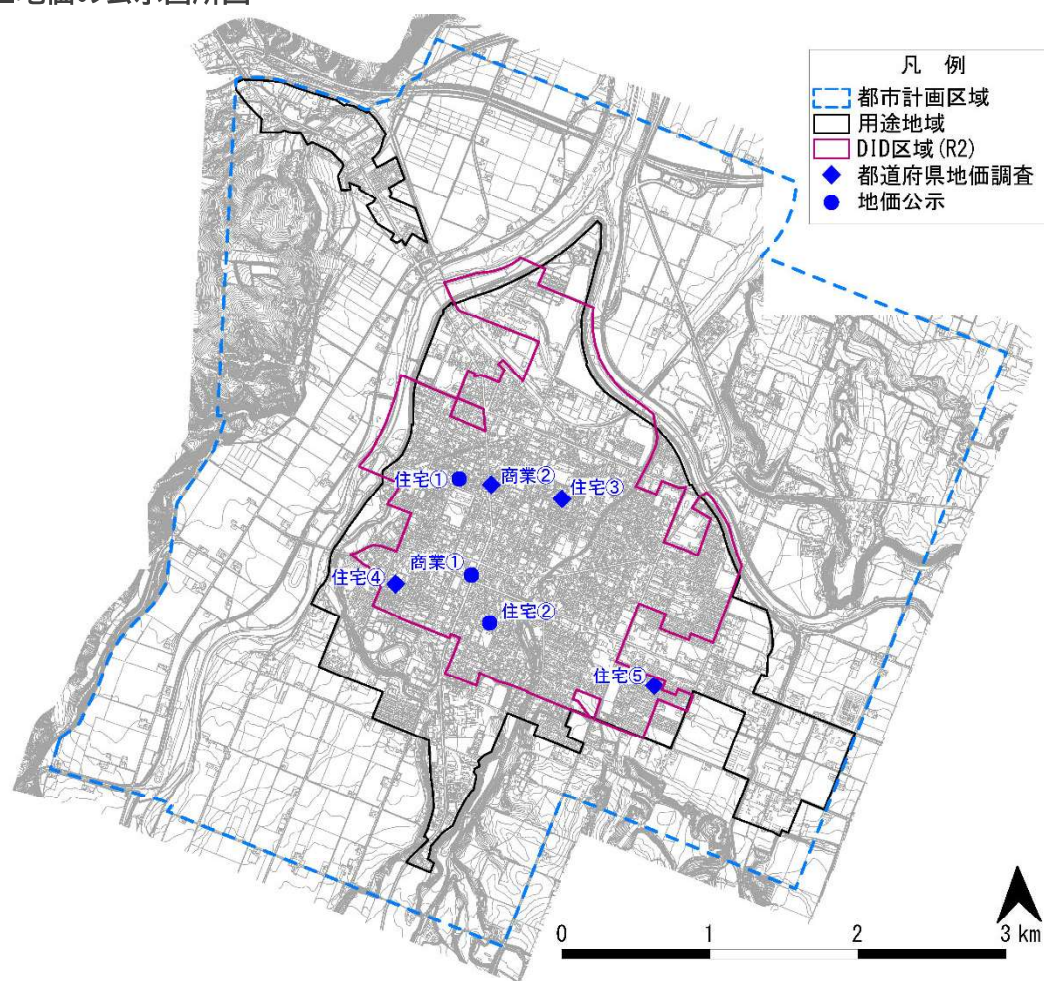
① 地価状況の推移

美幌町内は、地価公示(国)が3箇所、地価調査(北海道)が4箇所付されています。

平成13年から令和5年までの推移をみると、住宅地は、住宅①が39.6%、住宅②が41.1%、住宅③が39.4%、住宅④が37.3%、住宅⑤が19.0%下落しています。

商業地は、商業①が59.8%、商業②が45.9%下落と、住宅地よりも下落率が大きくなっています。

■地価の公示箇所図

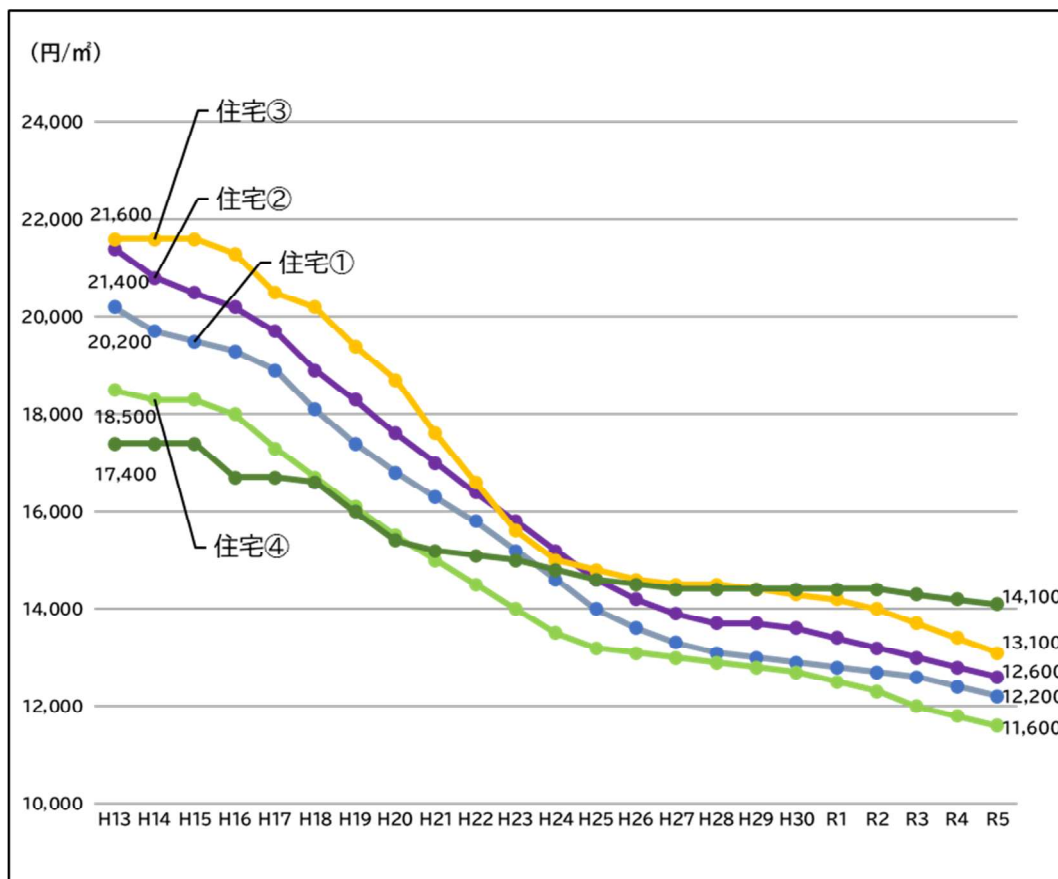


■地価の公示箇所図

凡例	所在及び地番	資料
住宅①	美幌町仲町1丁目141番38	国土交通省地価公示
住宅②	美幌町東2条南2丁目1番13	国土交通省地価公示
住宅③	美幌町栄町2丁目9番9	都道府県地価調査
住宅④	美幌町元町21番27	都道府県地価調査
住宅⑤	美幌町稲美82番37	都道府県地価調査
商業①	美幌町大通北1丁目13番1	国土交通省地価公示
商業②	美幌町仲町1丁目12番1	都道府県地価調査

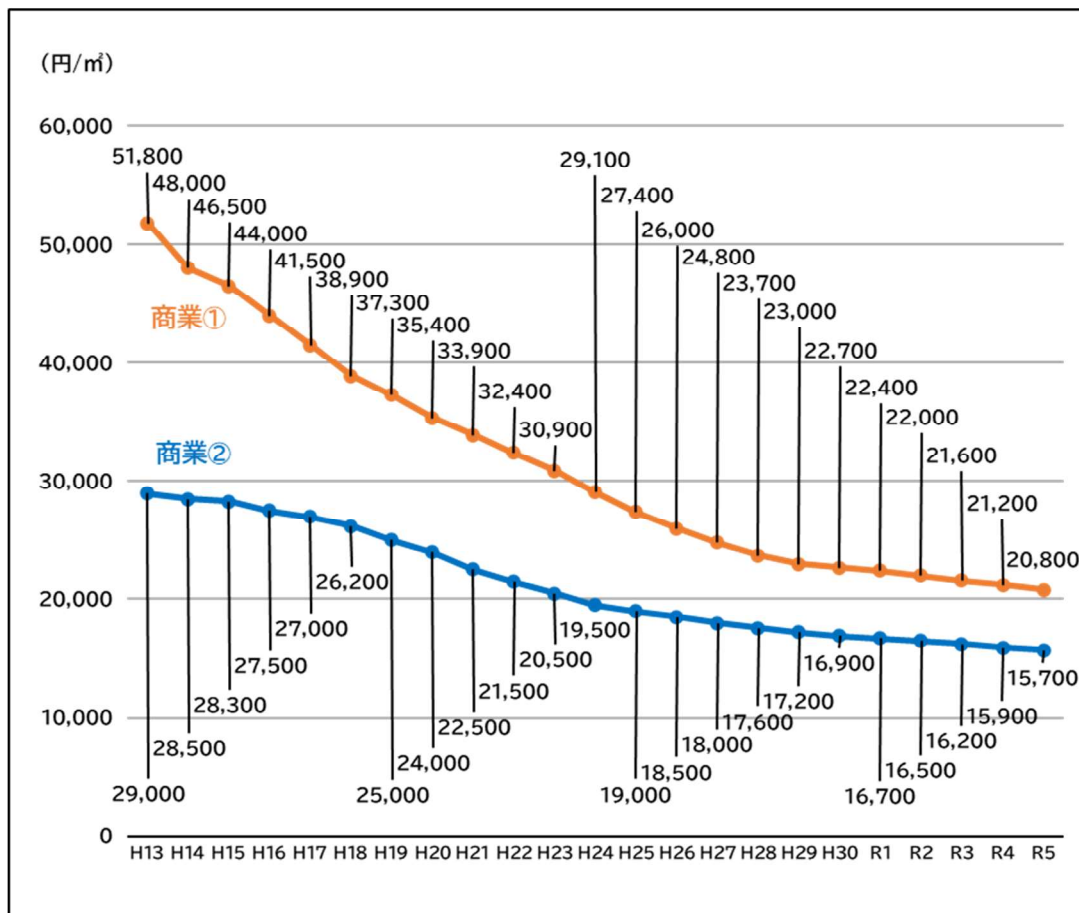
〔資料〕国土交通省 地価公示・都道府県地価調査

■住宅地の地価の価格動向



〔資料〕国土交通省 地価公示・都道府県地価調査

■商業地の地価の価格動向



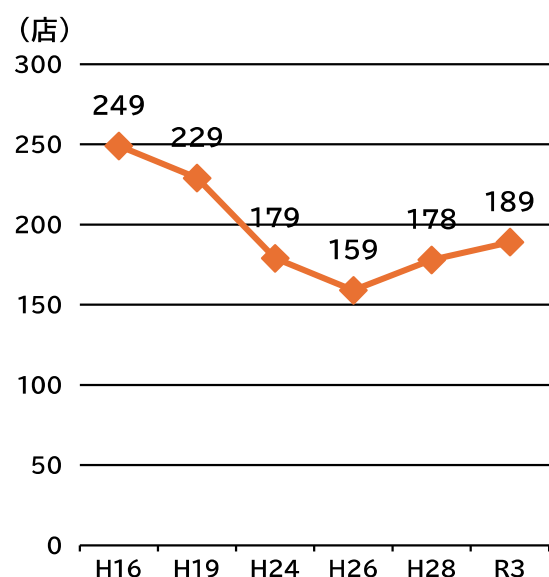
〔資料〕国土交通省 地価公示・都道府県地価調査

② 経済活動の推移

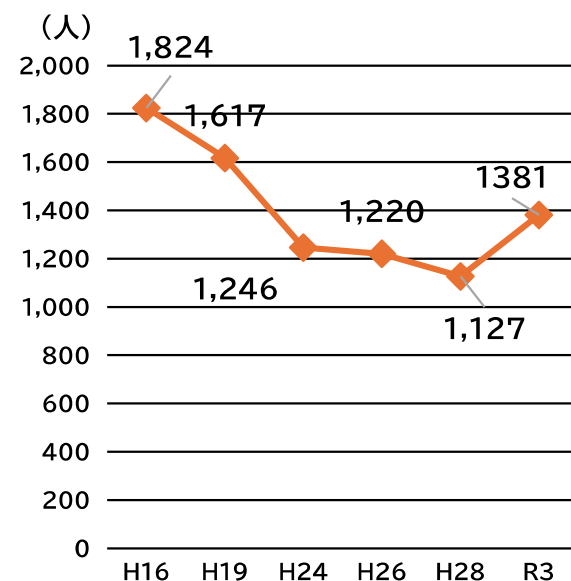
小売事業所数は、平成 26 年までは漸減していましたが、平成 28 年からは増加に転じています。小売販売額は、平成 24 年に大きく数を減らし、以降は横ばいで推移していましたが、令和 3 年は平成 19 年の水準まで回復しています。小売業従業者数は、平成 28 年まで漸減していましたが、令和 3 年は増加に転じています。

一方、売場面積は、令和 3 年に調査期間における最低値を記録し、減少傾向が続いています。

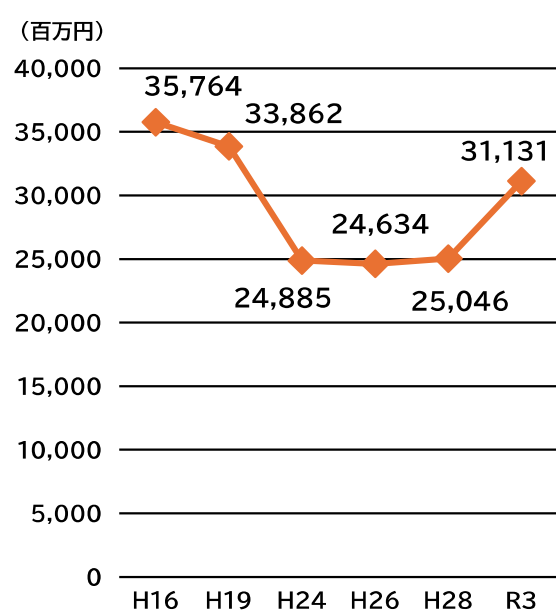
■小売事業所数の推移



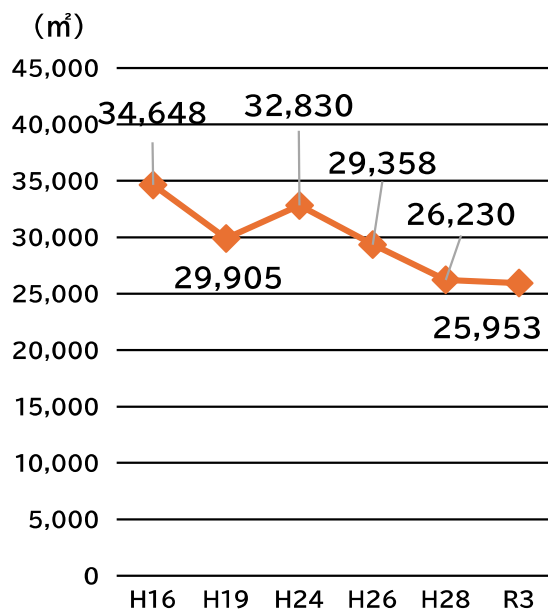
■小売業従業者数の推移



■小売年間販売額の推移



■小売業売場面積の推移



[資料] 商業統計調査(H26 まで)・経済センサス-活動調査(H28、R3)

資－2 アンケート調査結果

(1) 調査の概要

- 調査目的:都市計画マスタープランの改定及び立地適正化計画の策定にあたり、多くの市民の意見を今後のまちづくりに反映するためにアンケート調査を行いました。
- 調査対象:①美幌町に居住する 18 歳以上の世帯主から無作為に選定した 2,000 名
②美幌町ホームページよりアクセスして回答した方
③中学 1 年生から高校 3 年生までの学生
- 調査期間:①②令和 4 年 7 月 6 日～7 月 29 日
③令和 4 年 7 月 22 日～8 月 18 日
- 配布枚数:2,000 件
- 回答数:①614 件(回答率 30.7%)
(うち、調査票での回答:417 件、WEB 回答:197 件)
②84 件
③248 件

■設問内容:

【一般アンケート】(①②対象)

1. 回答者の属性

2. 美幌町の「まちづくり」について

- 問1 食料品や飲料などの買い物に最もよく利用する店舗の施設名・場所・移動手段・よく利用する理由
- 問2 家電・家具や衣料品、趣味用品などの買い物に最もよく利用する店舗の施設名・場所・移動手段・よく利用する理由
- 問3 最もよく利用するかかりつけの病院や診療所の施設名・場所・移動手段・行きやすさ
- 問4 利用する保育園・幼稚園等の施設名・場所・移動手段・行きやすさ
- 問5 利用する通所型の福祉施設の施設名・場所・移動手段・行きやすさ
- 問6-1 今後のまちづくりにおける取り組みの重要度
- 問6-2 特に力を入れてほしい取り組み
- 問7 美幌町の「中心地域」にあるべき施設、美幌町の「居住地域」にあるべき施設、美幌町の「郊外」または「美幌町外」にあってもよい施設
- 問8 まちの中心地域のイメージ
- 問9 今後も今の地域に住み続けたいか
- 問10 住み続けたい理由
- 問11 町内の他の地域に住み替えたい地域
- 問12 町内の他の地域、または町外に住み替えたい理由

3. その他、まちづくりに関するご意見やご提案

【学生アンケート】(③対象)

1. 回答者の属性

2. 美幌町の「まちづくり」について

- 問1 食料品や飲料などの買い物に最もよく利用する店舗の施設名・場所・移動手段・よく利用する理由
- 問2 家電・家具や衣料品、趣味用品などの買い物に最もよく利用する店舗の施設名・場所・移動手段・よく利用する理由
- 問3-1 今後のまちづくりにおける取り組みの重要度
- 問3-2 特に力を入れてほしい取り組み
- 問4 美幌町の「中心地域」にあるべき施設、美幌町の「居住地域」にあるべき施設、美幌町の「郊外」または「美幌町外」にあってもよい施設
- 問5 まちの中心地域のイメージ
- 問6 今後も今の地域に住み続けたいか
- 問7 住み続けたい理由
- 問8 町内の他の地域に住み替えたい地域
- 問9 町内の他の地域、または町外に住み替えたい理由

3. その他、まちづくりに関するご意見やご提案

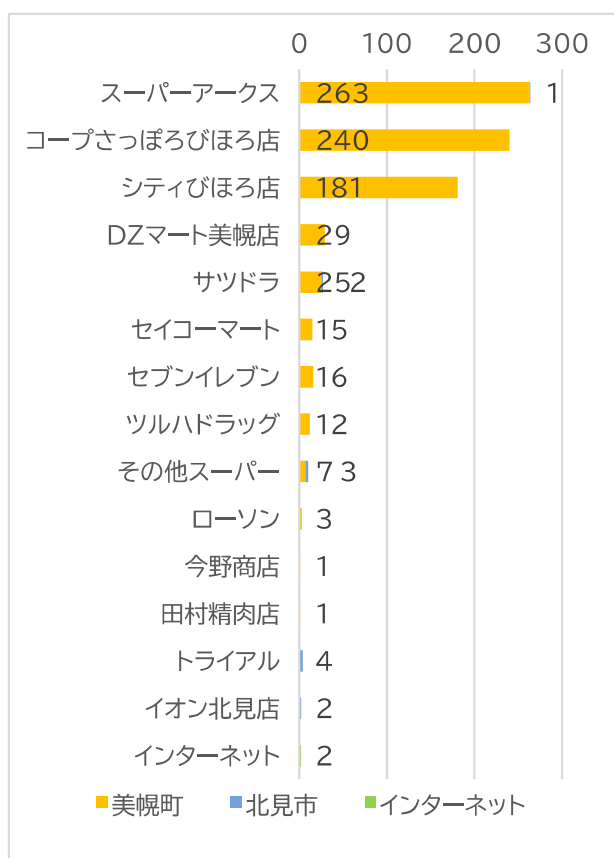
(2) 調査結果の概要

① 買物

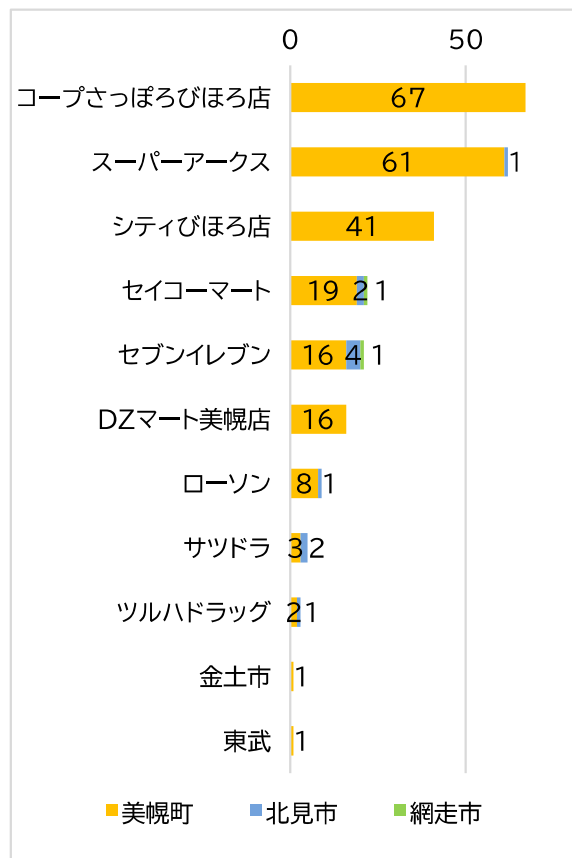
□よく利用する店舗(食料品・飲料)

- ・ 全世代共通して、町内で購入している割合が多くなっています。(一般は 98%、学生は 95%)
- ・ 特に、スーパーアークス美幌店、コープさっぽろびほろ店、シティびほろ店の順で多くなっています。

【一般】



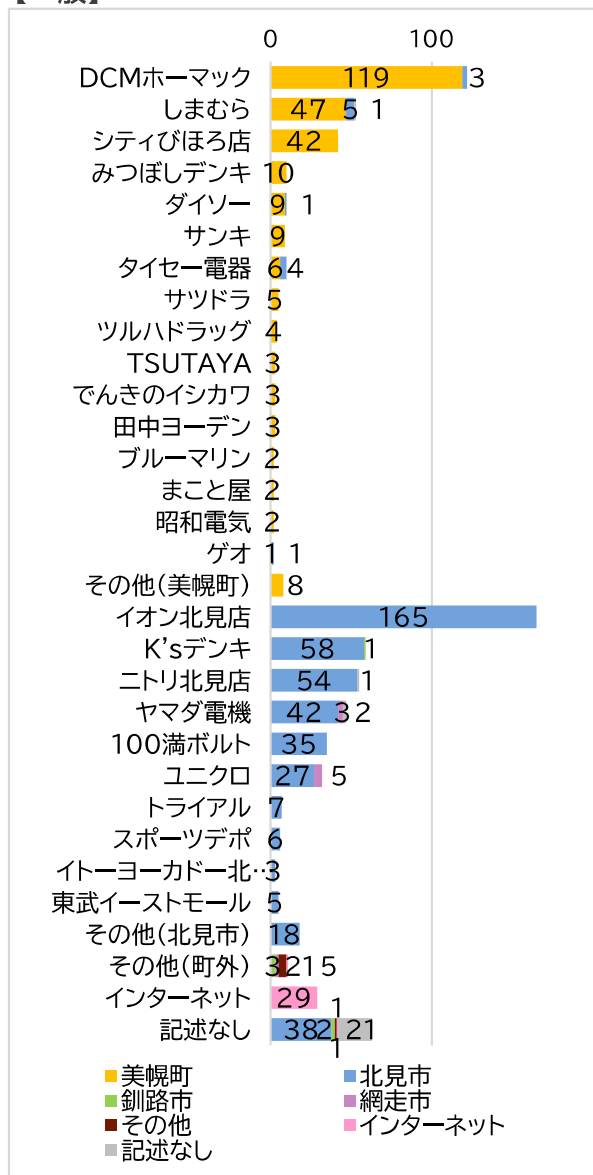
【学生】



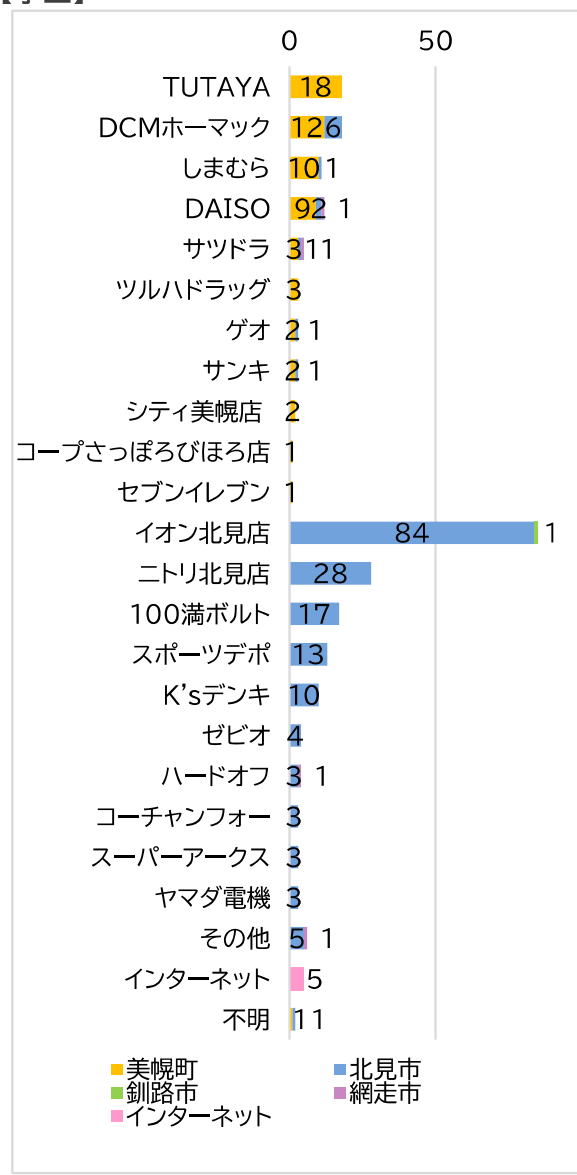
□よく利用する店舗(家電・家具・衣料品、趣味用品)

- ・ 全世代共通して、半数以上が北見市で購入しています。(一般は 57%、学生は 72%)
- ・ 一方、DCM ホーマック美幌店をはじめ、一般の 33%、学生の 25%が町内で購入しています。
- ・ 少数派ではありますが、その他としてインターネットと回答する方も相当数あります。

【一般】



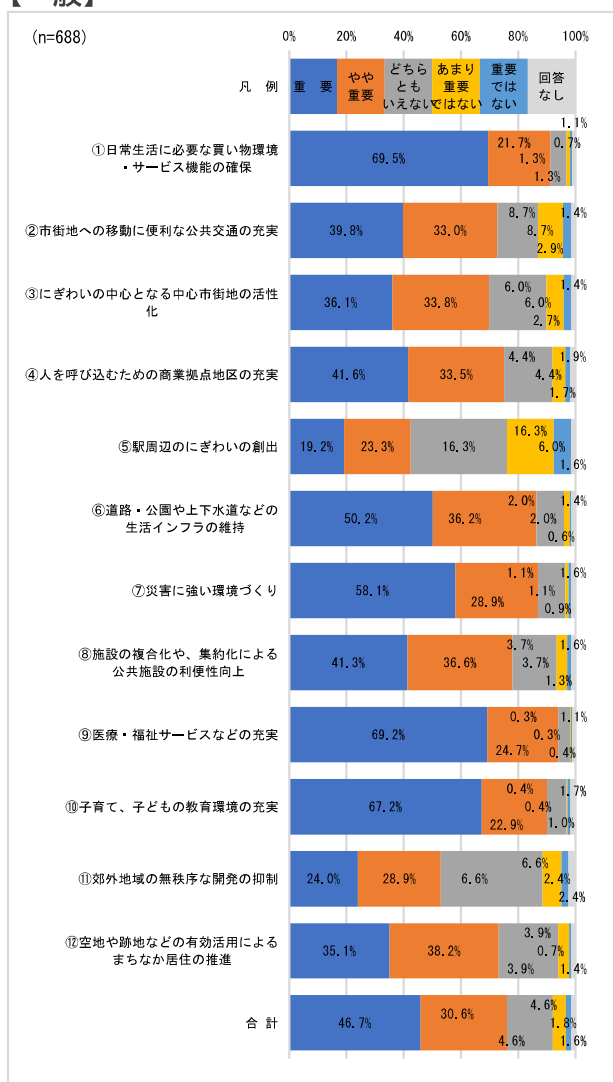
【学生】



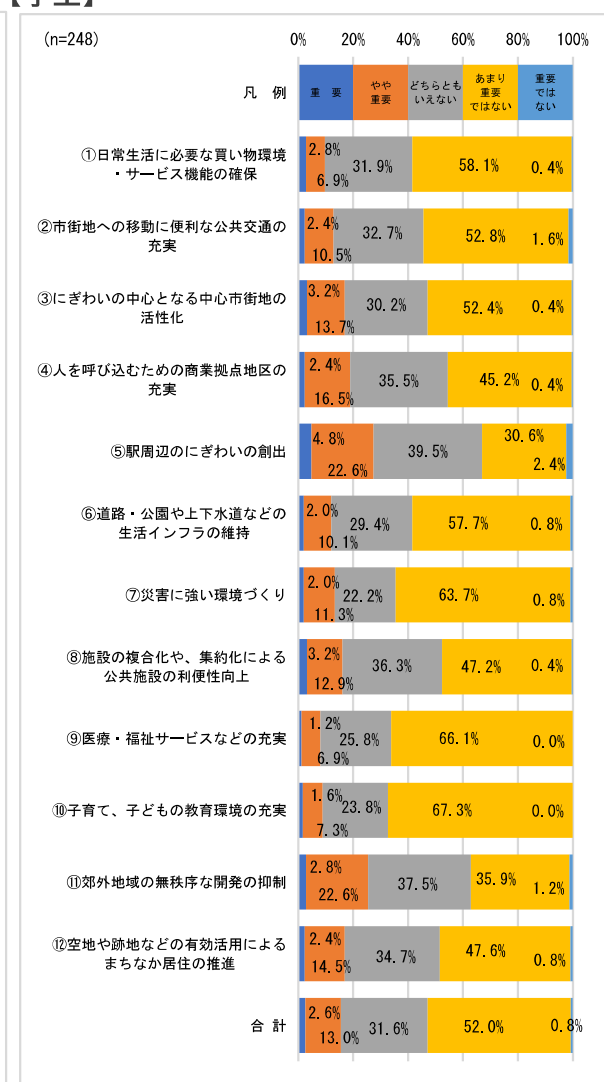
② 今後のまちづくりに取組の重要度

- 一般の回答傾向としては、日常生活に必要な買物環境、医療・福祉サービス、子育て・教育環境の充実について、重要度が高くなっています。一方、駅周辺のにぎわい、郊外地域の無秩序な開発抑制は、他の選択肢よりも重要度は低い状況です。
- 学生の回答傾向としては、駅周辺のにぎわい、郊外地域の無秩序な開発抑制、商業拠点施設の充実について、重要度が高いです。一方、日常生活に必要な買物環境、医療・福祉サービス、子育て・教育環境の充実は、他の選択肢よりも重要度は低いです。
- 上記結果から、一般は現実的に住み続けられる条件としての優先順位を求めており、学生はまちの賑わいを求めつつ、買物においては、インターネット普及による結果が反映されたものと考えられます。

【一般】



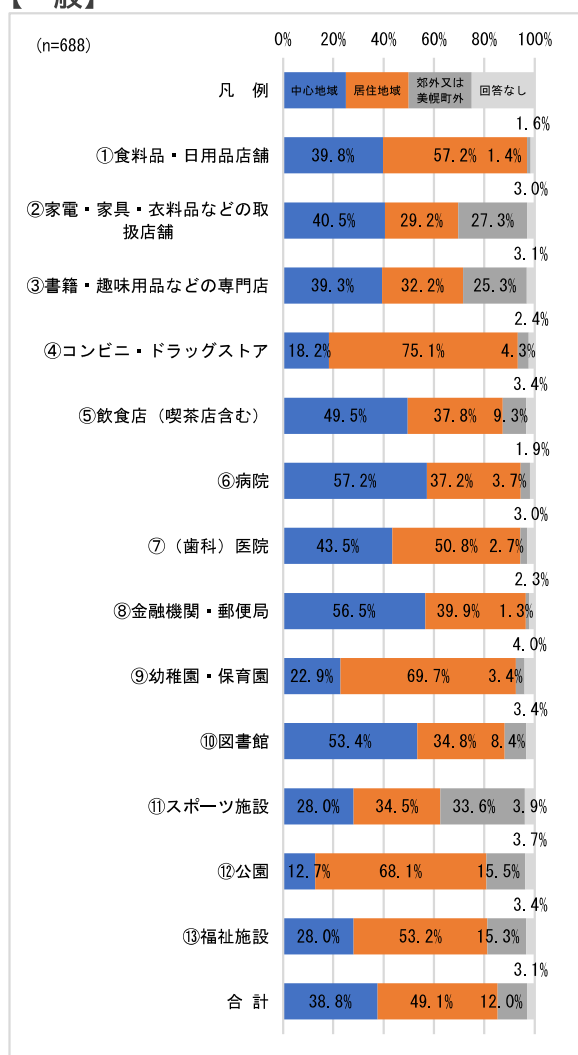
【学生】



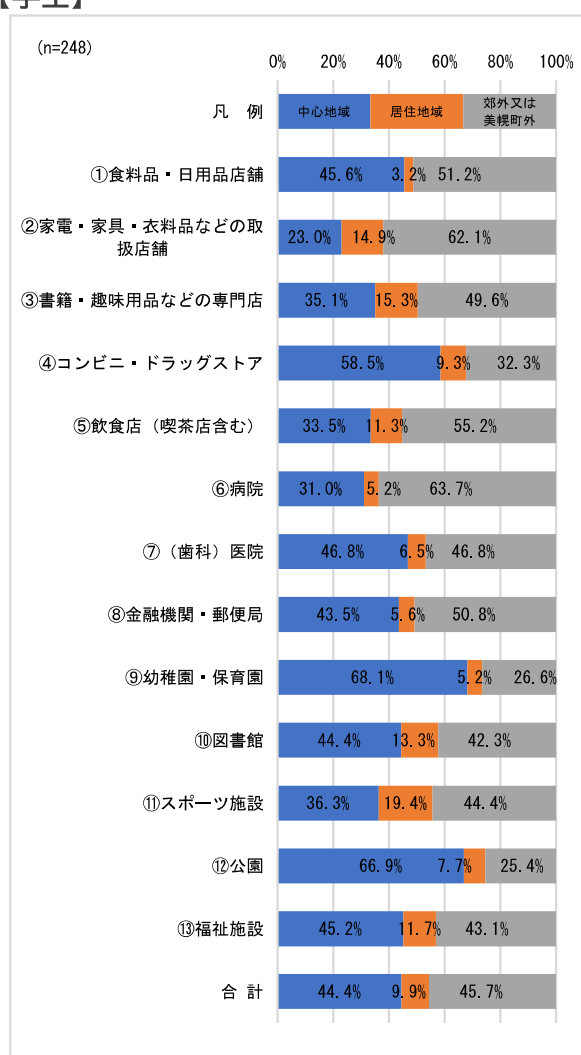
③ 立地条件

- 一般の回答傾向としては、病院、金融施設・郵便局、図書館が「中心地域」、コンビニ・ドラッグストア、幼稚園・保育園、公園が「居住地域」、家電・家具、書籍等の専門店、スポーツ施設は「郊外または町外の立地」にあるべきと回答しています。
- 学生からの回答傾向としては、幼稚園・保育園、公園、コンビニ・ドラッグストアが「中心地域」、スポーツ施設、書籍等の専門店、家電・家具は「居住地域」、病院、家電・家具、飲食店などは「郊外または町外の立地」であるべきと回答しています。
- 上記結果から、一般は公共施設や日用品が買える店舗、子育てしやすい環境を居住地域に求める傾向があり、学生はスポーツ施設や趣味用品を扱う店舗など、娯楽を居住地域に求めつつも、居住地域には施設立地をあまり求めている傾向です。

【一般】



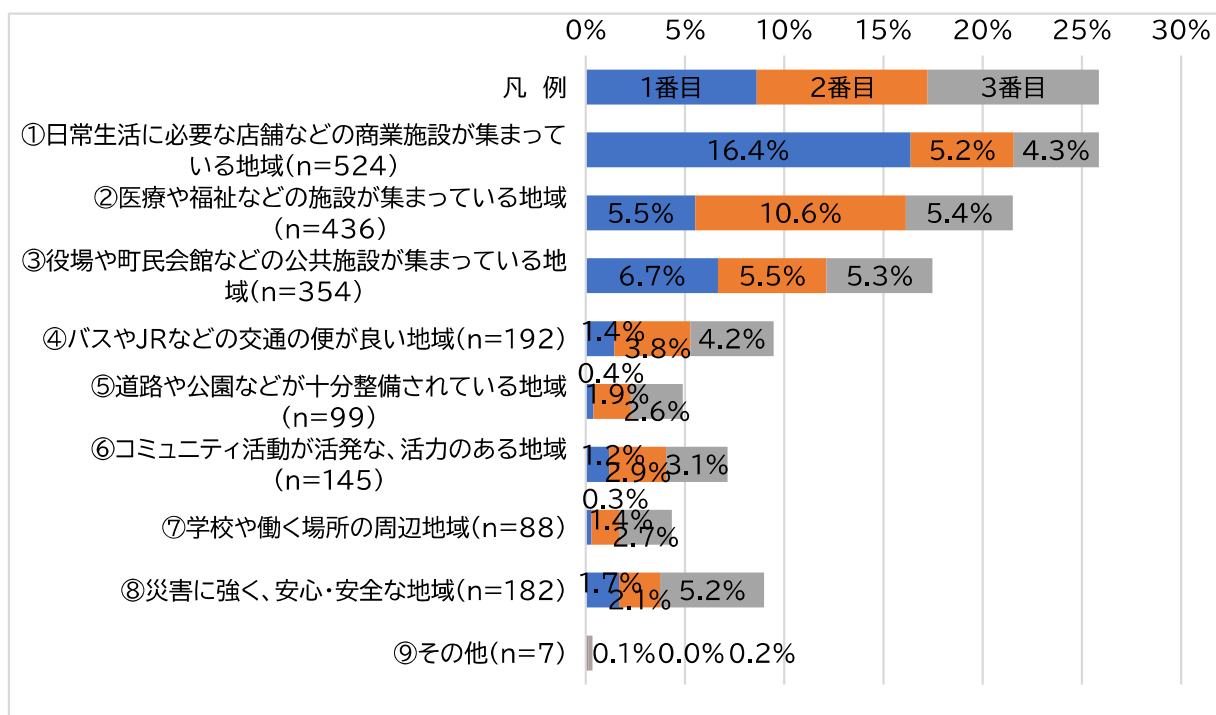
【学生】



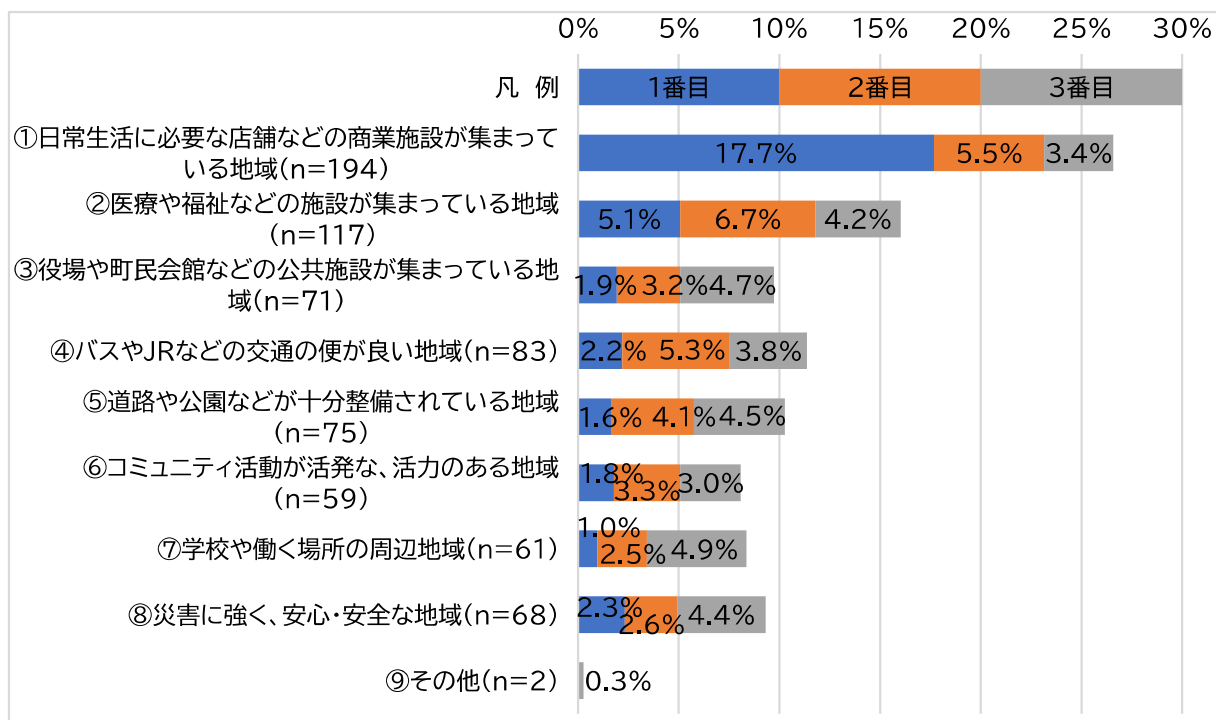
④ まちの中心地

- 一般の回答傾向としては、日常生活に必要な店舗等商業施設、医療・福祉施設、役場等の公共施設が集まった地域が、中心地域のイメージであると回答しています。
- 学生の回答傾向としては、日常生活に必要な店舗等商業施設、医療・福祉施設、バス・JR等交通の便が良い地域が、中心地域イメージであると回答しています。
- 学生では、通学や移動手段として利用する公共交通の便を重視する傾向です。

【一般】



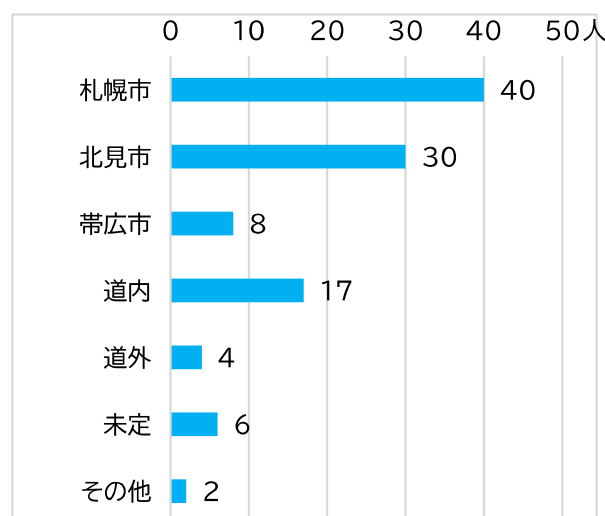
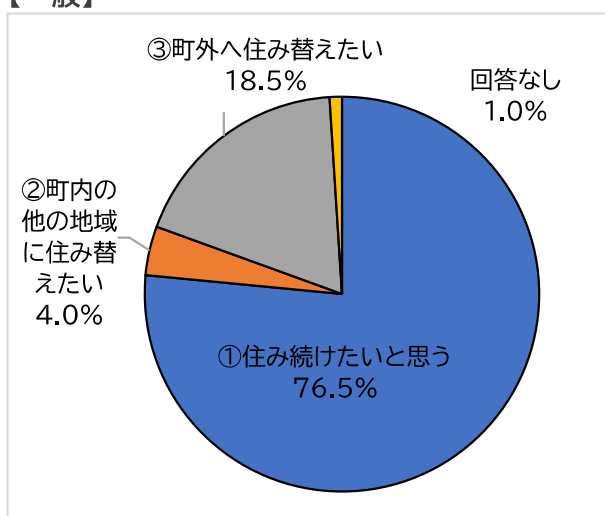
【学生】



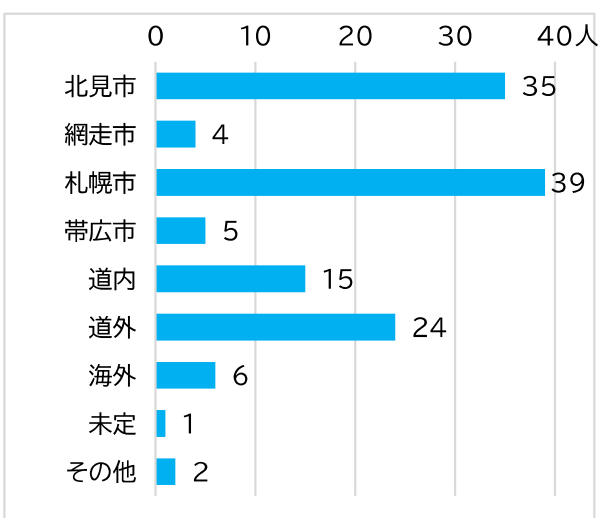
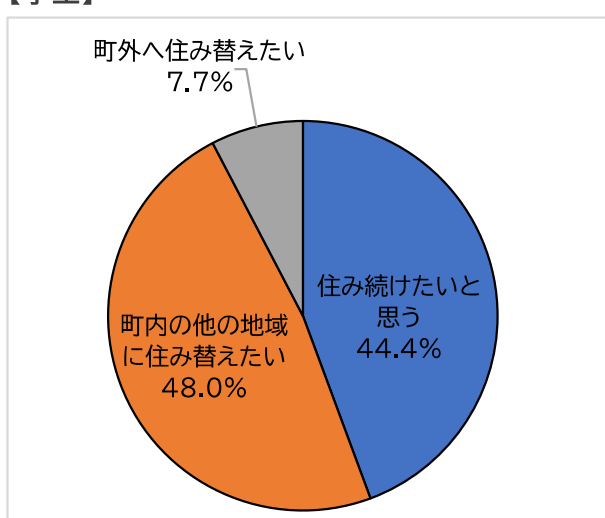
⑤ 居住の意向

- 一般の回答としては、80%が美幌町に住み続けたいと回答し、町外への住み替え地としては、札幌市、北見市、帯広市の順で多く、町内転居地としては、青山、三橋、稲美地域となっています。更に、主な転居の理由としては、大型商業店舗、保健医療、親族や友人の近く、働く場となっています。
- 学生の回答としては、92%が美幌町に住み続けたいと回答し、町外への住み替え地としては、札幌市、北見市、帯広市の順で多く、町内転居地としては、鳥里、青山、栄町、三橋地域となっています。更に、主な転居の理由としては、大型商業店舗、都会生活、働く場、交通の便となっています。

【一般】



【学生】



⑥ その他意見

- 一般の意見としては、子育て環境(遊び場)や商業施設(企業誘致含め)の充実に関することについて、多く意見があった。
- 学生の意見としては、商業施設(遊戯施設含め)の充実に関することについて、多く意見があった。

【アンケート結果からみた傾向】

- 問 1～問 5 の結果をみると、施設を利用する際の移動手段として美幌町民は自家用車で移動する方が多く、そのことから駐車場などがある施設への利用が多い傾向となりました。
- 問 1 と問 2 の最もよく利用する店舗を選ぶ理由においては、普段から行く頻度の高い食料品や飲料などの買い物は「自宅から近い」からという理由が多く、家電・家具や衣料品、趣味用品などの買い物では、「他の用事と一緒に済ませられる」理由が多いことから、買い物の頻度と効率が重視された傾向となりました。
- 問 3 の病院や診療所への通院では、美幌町と北見市への移動が多く、移動手段は8割強の方が自家用車であり、行きやすさは9割弱の方が満足・やや満足の結果であることから、自家用車を利用する世代までは現状のままでも満足している傾向となりました。
- 問 4 の保育園・幼稚園等の利用については、美幌町内の施設利用が多く、自家用車で移動が9割弱、行きやすさも満足・やや満足も9割と美幌町内の施設は利便性が高い傾向がみられました。
- 問 5 の通所型の福祉施設では、美幌町内の施設利用が多く、移動は「施設の送迎車」が5割強、「自家用車」が4割弱と、自分で移動される方が多い傾向となりました。また、行きやすさは9割と利便性が高い傾向となりました。
- 問 6-1 の今後のまちづくりに求めるものでは、「医療・福祉サービスなどの充実」の重要度が最も高くなりましたが、「日常生活に必要な買い物環境・サービス機能の確保」や「子育て、子どもの教育環境の充実」の重要度も高く、満足度を維持する必要がある結果となりました。一方で、「駅周辺のにぎわいの創出」は2割強の方があまり重要性がないとなり、他の取り組みの重要ではない傾向が 0～1割強に対して多い結果となりました。
- 問 6-2 の特に力を入れてほしい取り組みについては、1番優先度が高いものが「日常生活に必要な買い物環境・サービス機能の確保」であり、2番目は「医療・福祉サービスなどの充実」、続いて「子育て、子どもの教育環境の充実」となり、問 6-1 の重要度の高い取り組みと似た傾向となりました。
- 問 7 の美幌町の中心地域にあると良い施設については「病院」が6割弱と最も多く、続いて「金融施設・郵便局」、「図書館」が5割強となりました。また、「コンビニ・ドラッグストア」が8割弱と最も多く、続いて「幼稚園・保育園」、「公園」が7割弱、「食料品・日用品店舗」が6割弱となり、日常的に利用したい施設は居住地域を希望する傾向となりました。
- 問 7 の美幌町の郊外または美幌町外にあっても良い施設については「スポーツ施設」が最も多く、続いて「家電・家具・衣料品などの取り扱い店舗」、「書籍・趣味用品などの専門店」となり、娯楽に関する施設を町内に求めている傾向となりました。
- 問 8 の美幌町の中心地域のイメージとしては「日常生活に必要な店舗などの商業施設が集まっている地域」が最も多く、続いて「医療や福祉などの施設が集まっている地域」、「役場や町民会館などの公共施設が集まっている地域」との結果となり、日常生活に必要な買い物などのサービス環境に対する意向が強い傾向となりました。
- 問 9 の現在のお住いの地域に今後も住みたいかでは、「住みたいと思う」が8割弱と最も多く、今の地域に定住する方が多い結果となりました。また、住み替える場合は札幌市、次いで北見市が多い結果となりました。
- 問 10 の住みたい理由としては、「家や土地を持っている」が最も多く、持ち家が多い結果となりました。続いて「現在の仕事を美幌町で継続したい」、「現在の居住・周辺環境に不満がない」が多いことから、現在のお住いの地域が働く、生活する上で住みやすい意向がある傾向がみられました。
- 問 11 の町内の他の地域に住み替えたい場合は、「青山南・青山北」、「東栄・三橋」、「稲美」の回答が多く、国道 243 号線周辺への希望が多い傾向となりました。
- 問 12 の住み替えたい理由としては、「親族や友人の近くに住みたい」、「買い物の便が悪い」、「保険・医療環境が不十分」の回答が多く、こちらでも医療系サービスや買い物の利便性を求める声が多い傾向となりました。

資－3 策定の経過

年 月 日	策 定 経 過	作 業 内 容
令和 4 年度		【共 通】
7 月 6 日	町民アンケート実施(～8 月 18 日まで)	町民アンケート調査による課題整理
10 月 17 日	第 1 回庁内検討委員会	【都市計画マスタープラン】
10 月 31 日	第 1 回美幌町都市計画審議会	将来目標の設定、全体構想の検討
3 月 28 日	第 2 回庁内検討委員会	【立地適正化計画】
令和 5 年度		まちづくり方針・都市の骨格構造・誘導方針の設定、誘導区域の検討
5 月 24 日	意見交換会(商店街事業者 5 名)	【共 通】 企業立地アンケート調査、準防火地域の再検討調査、都市計画道路の見直し検討、住民説明会の開催 【都市計画マスタープラン】 全体構想の設定、地域別構想の検討 【立地適正化計画】 誘導区域・誘導施策の設定、防災指針の検討
7 月 19 日	意見交換会(商工会議所 8 名)	
8 月 8 日	意見交換会(大通北一丁目商店街 9 名)	
9 月 21 日	第 3 回庁内検討委員会	
11 月 6 日	第 2 回美幌町都市計画審議会	
12 月 7 日	町民説明会(35 名)	
12 月 13 日	意見交換会(商工会議所 27 名)	
3 月 26 日	第 4 回庁内検討委員会	
3 月 28 日	第 3 回美幌町都市計画審議会	
令和 6 年度		【共 通】 都市計画道路の見直し方針策定、原案作成、住民説明会の開催 【都市計画マスタープラン】 実現方策の設定 【立地適正化計画】 防災指針・目標値・評価方法の設定
9 月 18 日	北海道都市計画課協議(～12 月 27 日まで)	
9 月 20 日	第 5 回庁内検討委員会	
11 月 13 日	意見交換会(明和大学公開講座 57 名)	
11 月 17 日	第 4 回美幌町都市計画審議会	
1 月 20 日	第 6 回庁内検討委員会	
1 月 21 日	第 5 回美幌町都市計画審議会	
1 月 22 日	パブリックコメント(～2 月 20 日まで)	
1 月 24 日	意見交換会(商工会議所 23 名)	
2 月 5 日	町民説明会(29 名)	
2 月 13 日	意見交換会(商店街事業者 11 名)	
3 月 31 日	決定、公表	

資－4 策定体制一覧（敬称略）

■都市計画審議会

氏 名	区 分	備 考
味噌 一郎(会長)	学識経験者(商工)	
藤井 幸夫	学識経験者(自治会)	～令和6年6月
橋本 美典	学識経験者(自治会)	令和6年7月～
千葉 正美	学識経験者(農業)	
中川 寿一	学識経験者(運輸)	
宮田 博行	学識経験者(建設)	
高橋 清	学識経験者(大学)	
岡本 美代子	町議会議員	～令和5年5月
上杉 晃央	町議会議員	～令和5年5月
藤原 公一	町議会議員	～令和5年5月
高橋 秀明	町議会議員	～令和5年5月
馬場 博美	町議会議員	令和5年6月～
稲垣 淳一	町議会議員	令和5年6月～
横山 清美	町議会議員	令和5年6月～
宮崎 奈津江	町議会議員	令和5年6月～
渡辺 齊	住民代表	～令和6年10月
渡部 敏行	住民代表	令和7年1月～
武田 鉄雄	行政機関(消防)	～令和5年3月
大河原 芳之	行政機関(消防)	令和5年4月～

■庁内検討委員会

氏 名	所 属	備 考
遠國 求	建設部長	委員長
多田 敏明	危機対策課長	
竹下 護	政策推進課長	
吉田 善一	財務課長	
佐久間 大樹	町民活動課長	
水上 修一	社会福祉課長	
大内 直樹	児童支援主幹	
立花 良行	保健福祉課長	
以頭 隆志	農林政策課長	
沖崎 寿和	商工観光課長	
影山 俊幸	環境管理課長	
宮田 英和	環境衛生主幹	
遠藤 明	教育部長	
中尾 亘	学校教育課長	
菅 濟	図書館長	
高橋 清	北見工業大学教授	外部有識者

美しい時を描くまち。



美幌町コンパクトなまちづくり計画

都市計画マスタープラン

立地適正化計画

編集・発行 美幌町建設部建設課
